

グリーンスローモビリティとICTを用いた地方都市バス活性化実証

地域の抱える課題

- バス利用者の減少による、事業者の採算性悪化→路線廃止の悪循環
- ICT時代の情報発信に耐えられない事業者の業務体制

課題解決の方向性

- 新規需要の開拓による収益性の高い路線設定の方法論の確立
- 「紙と鉛筆による職人技」から「標準化データによるワンソース・マルチユース」の業務体制への変革

①グリーンスローモビリティ（GSM）による観光交通と生活交通の新たな需要創出実証



- シンボリックな車両の導入
- 小型車両でなければ進入できない路線の設定
- 新規需要として観光利用と生活利用の2つを想定



落合の石橋



苗木城跡

- 観光利用
旧中山道3宿場を活かした滞在型観光ルート設定（落合～馬籠間のガイド付きツアー）
- 生活利用
中津川駅周辺の中心市街地における路線バス端末バス、中心市街地高齢者の足確保

観光路線の収益で生活路線の運行経費を捻出

新規需要開拓と収益性の高い商品の開発

②生産性向上と働きがい向上のための地方バス事業者ICT化推進モデルの提示



- GTFSデータ・位置情報の活用による利用者の利便性向上 + 事業者の生産性向上を実現
- 人と情報の役割分担による業務効率化により長時間労働・低賃金の労働環境を改善

【情報化による利便性・生産性向上】

標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）
2017年3月に国土交通省が定めた形式
バスの位置情報、時刻表、ルート、運賃などの複数のCSVファイルを格納したZIPファイル

GTFS-JPのオープンデータ化→バスの活性化に



スマホで経路検索
インターネットやスマートフォンで経路検索が可能に



サイネージで運行情報案内
バス車両の現在位置情報などを組み合わせ、デジタルサイネージで運行情報を案内



調査・分析の基礎データ
GTFS-JPと国勢調査5次メッシュ人口を利用した、高齢者人口分布とバスサービスの可能性を可視化した例



クリスマスバスでバスロケ
単なる移動手段ではない「楽しみ公共交通」の創出と、公共交通の魅力を引き出す

【Face to Faceの利用促進】



情報化・電子化による業務効率化により
“人にしか出来ない仕事”に注力できる環境を創出

生産性向上と働きがい向上のための情報化推進

両者を通じて、地方バス事業者の活性化モデルを示す